

動画で学ぶ！ 次世代へつなぐ婦人科ロボット支援手術

企画者のことば

小林栄仁* 四元房典**

婦人科領域においてもロボット支援手術が2018年に保険適用が承認され、全国的に急速に普及しており、今後ますます増加することが推測されます。ロボット支援手術の導入や指導については、日本婦人科ロボット手術学会が2020年よりプロクター(手術指導医)制度を開始し、安全性を担保しながら国内のロボット支援手術の環境整備を行っています。また、2023年度から日本産科婦人科内視鏡学会技術認定制度においてもロボット支援手術が審査対象となり、今後は若い世代がロボット支援手術に着手する機会も増えることが予測され、内視鏡手術の特性を生かした術者教育は極めて大事な課題であると思われます。

そこで本特集企画におきましては、婦人科で各領域のエキスパートの先生方に下記の内容でご解説をお願いしました。まずは、婦人科領域におけるロボット支援手術のメリットを整理するため、バージョンアップした現行の手術支援ロボットや新規参入してきた手術支援ロボットにおけるそれぞれの特徴、ならびに今後の展望をまとめていただきました。次に、婦人科の各疾患や高難度症例に対するロボット支援手術の手技のポイントを手術動画付きでご説明していただくことで、文章だけでは伝わりにくい内容を読者が視覚的に捉えることが可能となり、エキスパートによる手術をより深く理解できるように工夫しました。一方で、ロボット支援手術が標準術式化していくうえでは、出血や他臓器損傷など緊急事態に安全に対処できることは必要条件となり、トラブルを未然に防ぐための取り組みもより肝要となるため、ロボット支援手術時のトラブルシューティングとその予防法についてご執筆いただきました。さらに、2024年から始まった働き方改革のなか、婦人科領域ではこれからのロボット支援手術の担い手となる若手医師や産婦人科で増えている女性医師に対して、手術手技を効率的かつ効果的にどのように教えていくのかについても重要なテーマとさせていただきます。

今回の特集号が、ロボット支援手術に携わる皆様の一助になれば幸いです。

* Eiji Kobayashi 大分大学医学部産科婦人科学講座(教授)

** Fusanori Yotsumoto 福岡大学医学部産科婦人科学講座(教授)